

〔Ⅲ〕 学会名称の変更とその組織の変遷について

理事長 鈴木秀雄
(関東学院大学法学部教授)

本学会は、多くの先人の努力により、前身である、懇親会、研究会、レクリエーション学会から、日本レジャー・レクリエーション学会へと時代と共にその名称や果たすべき役割も変化させつつ現在に至っている。会の発足から現在の日本レジャー・レクリエーション学会に至るまでの学会名称の変更とその組織の変遷について内外の資料の精査と共に、関係者に対する歴史を縮く貴重なインタビューを通して得た内容の検討によりその概要を述べる：

(1) レクリエーション研究懇談会（1964年（昭和39）年3月10日）の発足

レクリエーション運動の推進団体としては日本厚生協会（1938年）が組織され戦後に日本厚生運動連合となり、その後日本レクリエーション協議会と改称し、現在の財団法人日本レクリエーション協会（略称 NRAJ）があるが、これらの運動体の推進には学会にも関係した白山源三郎氏（NRAJ 初代専務理事、関東学院大学初代学長）や三隅達郎氏（前日本キャンプ協会会長）があげられるが、一方レクリエーションの研究の動向が盛んに見え始めたことをきっかけに、小川長治郎氏（昭和38年日本レクリエーション協会専務理事就任）や前川峯雄氏（東京教育大学教授）らが中心に、学術的な研究推進団体としてレクリエーション研究懇談会を創設

(2) 日本レクリエーション研究会（1965（昭和40）年3月9日）の発足

現場のレクリエーション問題を科学的・論理的に解明し、それらを実生活の中に反映させ、生かしていこうという視点、また組織的な研究活動を推進するために各方面からの会員の参加を求め、前身である懇談会15名のメンバーによる発起人総会を開催し、日本レクリエーション研究会を設立

(3) 日本レクリエーション学会（1971（昭和46）年3月21日）の発足

研究会時代の6年間（足掛け7年）には、各研究大会で1965年に12題、1966年15題、1967年15題、1968年23題、1969年15題、1970年の10題、そして1971年には4題の研究論文及び調査報告1題が旧研究会誌「レクリエーション研究」（第6・7合併号）に発表されるなど、定期的で確かな発表がなされると共に、会員数の増大、研究領域の具体化等、研究活動推進の形態も整ってきたことにより、日本レクリエーション研究会を発展的に解消し、日本レクリエーション学会を設立

(4) 日本レジャー・レクリエーション学会（1991（平成3）年11月10日）への改称

第18回日本レクリエーション学会（1988年8月22日）が北海道函館市の新装なったハーバービューホテルで開催され、この時のシンポジウムのメインテーマは「レクリエーション研究の今日的課題」であった。この折に学会名称についても論議され、既に、欧文名称にも Leisure という語が組み込まれており、規約の整備と共に外国人研究者にも開かれた学会とするためにも欧文名も Japanese から Japan と統一することし、Japan Society of Leisure and Recreation Studies（略称：JSLRS）とすることを含め、その後の数次の常任理事会、理事会の論議を経て、第21回学会大会（1991年11月9日～10日、於：名古屋市中区、朝日会館）の総会において名称変更の議案が上程され、会員からの承認を受け、現在の日本レジャー・レクリエーション学会へと改称し、本年9月23日（土）・24日（日）の両日にわたり研究発表（23題）と実践報告（21題）を含め記念講演、基調講演、そしてシンポジウムが計画され、第25回記念学会大会として関東学院大学法学部小田原校舎での開催に至っている。